

ラ フォレ セ ラ ヴィー ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



タンザニアのキボンド県で唯一残っている難民中継所。かつては木々が生い茂っていましたが、薪を求める難民と地域住民が競って伐採を進めたため、このような裸地になってしまいました。

「これ、寒いから着なさい！」と言って渡されたのは厚手のセーターでした。タンザニアでお世話になった現地 NGO スタッフの奥様が、薄着の私に見かねて編んでくれたのです。タンザニアの西部は冷え込むこともあるので厚手の長袖が必要であるという情報は、出発前から得ていましたので、夏服に加え春秋用の衣服を持っていきましたが、とんでもない。冬服も必要でした。雨期の真最中は、日中でも手がかじかんで字が書けないことがあります。標高 800m とはいえ、赤道直下でセーターを着ることになるとは想像もしませんでした。

「緑のサヘル」は、昨年度から国際緑化推進センター（JIFPRO）の「タンザニアにおける難民キャンプ周辺荒廃森林等保全・復旧プログラム策定事業」に協力しています。タンザニアは意外にもアフリカで最も多くの難民を受け入れている国です。難民の多くはブルンジ共和国とコンゴ民主共和国の内紛を逃れてきた人々で、現在約 60 万人の難民がタンザニアで生活しています。近年は、ブルンジの政情も安定しつつあり、難民の帰還が始まっています。

私は今回、プロジェクト形成調査で2月から3月にかけて初めてタンザニアを訪れました。これまで「緑のサヘル」が活動を行ってきたチャドやブルキナファソと異なり、雨量は 1000 ミリを超え、緑は豊かです。しかし、その緑の中で住む人々の環境意識が高くなければ、数ヶ月で森林資源は伐採され土地は荒廃してしまいます。まさに、タンザニア西部はこの状況でした。日本でもそうですが、豊かな資源に囲まれていると、その資源が生活に影響が出るほど減少するまで、あるいは周囲から資源の貴重さを指摘されるまで、その大切さを身をもって感じ取れないのかもしれない。

（緑のサヘル現地調整員 竹越久美子）



緑のサヘル 質問箱



今年も早5月となりましたが、例年この時期は多くの中学生が事務局を訪れてくれます。修学旅行の一環で現地の状況や活動の様子を学習するのですが、ほとんどの生徒が真面目に取り組み、真剣な眼差しで説明に聞き入ってくれます。質問も多く、中には事務局が思わず絶句してしまうような鋭い質問もあります。そこで今回は中学生の皆さんからよく頂く質問の中からいくつかを選び、お答えすることになりました。

Q1. どういう状態を「砂漠化」と言うのですか？

ー乾燥の厳しい地域で、土地をおおっている緑がなくなってしまうと、土がむき出しになって、土の栄養分が雨に流されたり、風に飛ばされてしまいます。また、直接日差しがあたって土の水分が蒸発してしまいます。その結果、草や木が育ちにくくなってしまい、農業にも適さない荒地になってしまいます。これを「砂漠化」といいます。



Q2. どうして「砂漠化」が起きるのですか？

ー砂漠化の原因には自然の乾燥によるものと人間によるものがありますが、最近の研究では、人間が生活の必要によってすることが、もっとも大きな原因となっていると言われています。例えば、薪を集めるために多くの木を伐ったり、畑を作るために森を焼き払ったりすることがそうです。また、ヤギやヒツジ、牛などの家畜が多くの草や木の芽、葉を食べてしまうことも原因となっています。

Q3. 現地ではどんな活動が必要なのですか？

ー何よりも先に考えなければならないのは、現地の人々の生活です。「木を植える」ことよりも「木を植えることができる生活を作る」ことが大事なのです。安心して生活を送るためには、食べ物と飲み水が必要です。また、木を伐らない生活の方法も考えなければなりません。「緑のサヘル」はまず、米や大豆、野菜の作り方を教えたり、井戸を掘ったり、薪を節約できるカマドを広めたりして、生活を豊かにする努力をしました。それから現地の人々と一緒に、木を植え始めました。



Q4. 活動をしていて、つらいことは何ですか？ また、うれしいことは何ですか？

ー現地では何年かに一度、大きな飢饉に襲われたり、悪い病気が流行って、多くの犠牲者が出ます。そういう時に現地の人々が苦しんでいる姿や、家族を失って悲しむ姿を見ることが何よりもつらいです。逆に現地の人々が、「今年は作物が良く実った」とか「植えた木がこんなに大きくなった」と喜んでいる顔を見ると、とてもうれしくなりますし、この活動をやっていて良かったと思います。

Q5. このままだと日本も砂漠化してしまうのですか？

ー日本は乾燥が厳しい地域ではないので、アフリカのような砂漠化は起きないと考えられています。しかし、森林を伐採したために土が雨に流され、植物が生育できなくなってしまった土地はあります。このような土地では、もう作物も作れませんし、動物も暮らすことができません。私たちが十分に気をつけていないと、こうした不毛な土地が広がってしまうかも知れません。

Q6. 私たちにできることは何ですか？

ー日本はとても経済的に恵まれており、私たちはいつも便利な生活を送っています。でも実は、世界の中でも日本のように恵まれた国は少なく、今でも多くの人が電気や水道のない生活を送っているのです。必要なのは日本の生活に満足して何もしないのではなく、一人一人が今、世界でどのような問題が起きているかを知り、それを解決するために何が必要なのかを皆で考え、他の人たちに伝えていくことだと思います。





●チャド共和国

「緑のサヘル・チャド (AGS-Tchad)」によって、チャド湖に面したカルル地域に2つの育苗所が開設されたことは前号でお伝えしましたが、その後、地域住民を対象とした育苗・植栽講習会が催されました。この講習会は3村から計30名が参加して3日間に亘って実施され、「緑のサヘル・チャド」の普及員2名（いずれも緑のサヘルの旧スタッフ）によって、苗木生産、植栽、後管理の詳細が説明されました。



育苗を行う住民への用具引渡し式

「緑のサヘル・チャド」は今年度、首都ンジャメナを含む5つの地域において苗木の生産や植林、改良カマドの普及、住民組織支援等の活動を行う予定です。

●ブルキナファソ

北部のタカバングウ村では、地球・人間環境フォーラムの委託による環境省事業「砂漠化対処のための地域密着型技術移転に関する調査・研究業務」が進められています。4つの住民グループが各々、荒廃地回復、畜耕、裁縫、石鹼作りの技術習得に努めており、2月には2006年の活動を一般に伝え、検討するワークショップが開催され、多くの村民の参加を得ました。



ワークショップには多くのタカバングウ村民が参加した

この事業は、2006年3月を持って当初計画である3ヶ年を終了しましたが、現在も進行中の活動があり、2007年はその完了とフォローアップを行う予定です。

●タンザニア連合共和国

昨年度から国際緑化推進センター (JIFPRO) の「難民キャンプ周辺荒廃森林等保全・復旧プログラム策定事業」に協力しています。タンザニアはサヘル地域には属しません。しかし、当団体のチャド東部スーダン難民キャンプでの活動経験を生かし、タンザニアにおいても難民キャンプという特殊な事情を抱える土地での環境保全活動に協力することとなりました。活動対象地は、タンザニア西部のブルンジ共和国と国境を接するキゴマ州キボンド県です。



難民中継地（右奥）と周辺荒廃地

カウンターパートとして、タンザニアのローカル NGO で、キボンド県において約10年の環境活動実績がある REDESO (Relief to Development for Society: 人道・開発社会支援) に協力を求めました。2007年2～3月の調査の結果、難民がキャンプへ移動する前に身分調査や健康診断を行う難民中継所の森林荒廃が著しいため、難民中継地とその周辺村での活動計画を作成中です。

活動報告2

国内活動



★ 第36回 活動報告会（07年4月21日：於横浜）

「緑のサヘル」代表理事の岡本敏樹が、去る4月21日土曜日、横浜市の「かながわ県民センター」にて、当団体が2004年から約3年間にわたって参画し、2006年12月を以って終了となったUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とのプロジェクトについて報告をいたしました。

横浜では初めての報告会開催ということで、当初は参加者が集まるか不安ではありましたが、国際政治や環境に関する研究を行っている学生や大学関係者、アフリカへの出張を控える方等、様々な分野の方が参加されました。また、頂いた質問や報告会に対する感想も大変興味深いものが多く、参加者の意識の高さがうかがえました。

今後も、東京以外の都市での報告会を積極的に開催し、「緑のサヘル」の活動報告を通して、新聞やテレビではなかなか知る機会がない、世界で実際に起こっている様々な問題や環境支援の役割および課題などを、より多くの方々にお伝えしていきたいと考えています。



現場で撮影した画像を用いて、説明する岡本。

*ご希望の方には当日使用した資料を、郵便あるいはEメールにて送付いたしますので、緑のサヘル東京事務局までご連絡ください。

★ スタッフ紹介



ブルキナファソで新しいプロジェクトを開始するのに伴い、2007年4月より町慶彦（まちよしひこ）が「緑のサヘル」のスタッフとして加わりました。2006年12月まで青年海外協力隊の植林隊員として2年間ブルキナファソで活動に従事しており、専門知識を持ち合わせた心強いスタッフです。

★ 事務局ボランティア大募集！！

「緑のサヘル」では、現在ボランティアさんを大募集しています！！業務の内容は事業運営や事務作業の補佐など多岐に渡りますが、「これをやってください」とお仕事をこちらから規定するだけではありません。どんどんアイデアを出して、自ら企画を組み立てて積極的に実現できるような方、大歓迎です。未経験の学生さんも、バックアップいたします。ふるってご応募下さい！

時 間：平日の午前10時～18時の間で、応相談。
（場合によっては土日の同時間帯や
平日18時以降でも可）

場 所：緑のサヘル事務局

問合せ：電話 03-3252-1040

e-mail sahel@jca.apc.org

（担当 佐藤）



5月といえばイベントの季節です！！

主に東京での開催になりますが、週末のお休みを利用して、『・・・ちょっと難しい～』と思われがちな「国際協力」や「アフリカ」というキーワードを、身近に感じてみませんか？

イベント①

アフリカン・フェスタ 2007

「アフリカン・フェスタ」では、アフリカの音楽やダンスのステージ、駐日アフリカ各国大使館や NGO による出展コーナー、さらにはアフリカ料理の売店やレクチャー、ワークショップなど、楽しいイベントが盛りだくさんです！！「緑のサヘル」も参加し、スタッフが出張時に会った素敵で楽しいお土産を一挙公開&販売いたします！

- 開催日時 （雨天開催）

5月19日(土)12:00～17:00

5月20日(日)10:00～17:00

- 開催会場 日比谷公園 大噴水広場・小音楽堂・第二花壇 周辺

- 入場料 無料

* 主催；外務省 後援；駐日アフリカ各国大使館、東京都、千代田区



イベント②

国連加盟50周年記念のつどい

日本が国連に加盟して50年——。国連の目的や国際協力について考えてみませんか？

民間団体の活動紹介を通し、国連機関と NGO の協力関係を深めることを趣旨としたイベントです。国連機関との共同プロジェクトを実施した経験のある日本の NGO 団体ということで、この度「緑のサヘル」も展示ブースを設けることとなりました。パネルなどの資料を用いて活動の紹介をするほか、民芸品の販売もいたします。

- 開催日時

5月26日(土) 10:00～17:00

- 開催会場 都政ギャラリー （東京都庁1階）

- 入場料 無料

* 主催；日本国際連合協会東京都本部 共催；東京都 東京都国際交流委員会

両イベントとも、「緑のサヘル」スタッフが常駐します。ぜひ遊びにきてくださいね！！

今年も開催！ チャリティ・コンサート！！

来る6月10日（日）、大阪府の池田市民文化会館において、日本を代表するヴァイオリニスト千住真理子さんによるチャリティ・コンサートが催されます。このコンサートは、「(財) いけだ市民文化振興財団」「アフリカの砂漠で木を植えている日本人青年を支援する会」「中西クリニック」が主催し、「池田市」「池田市教育委員会」「在大阪チャド名誉領事館」の後援と「日チャド協会」の協賛を得て開催の運びとなりました。このコンサートの様子は、次号において詳しくお伝えいたします。

主催者の一つである「アフリカの砂漠で木を植えている日本人青年を支援する会」は、「緑のサヘル」が現地で活動を開始した1992年以来、バザーやコンサートを通じて「緑のサヘル」の活動を支えています。1992年から始められたチャリティ・バザーは、阪神・淡路大震災があった1995年にも休まず2002年まで続けられました。そして翌2003年にはヴァイオリニストの幸田聡子さん、2004年はテノール歌手の錦織健さん、2005年はスーパートリオ（足立さつきさん、赤坂達三さん、斎藤雅弘さん）によるチャリティ・コンサートを主催しています。いずれの年も収益は「緑のサヘル」に寄付され、現地での活動を支える大きな力となっています。



2007年のチャリティ・コンサートは千住真理子さんです。

こんなところに掲載されました！

これまで、緑のサヘルの活動写真を様々なところで取り上げていただいています。

今回は、その一部をご紹介します。

- ▶ (株)帝国出版：『**高等学校地理A『新地理A』**』（サヘル地域砂漠化防止活動の写真掲載）
- ▶ 有斐閣：『**社会学史テキスト**』（1章のイントロダクションで砂漠化の写真掲載）
- ▶ NHK 中部ブレイズ：『**環境教育DVD「モリゾー・キッコロ 地球環境の旅」**』（愛・地球博の環境教育用DVDにサヘル地域の写真掲載）
- ▶ (株)アマゾン：『**NHK 総合テレビ「痛快！環境トーク～砂漠に挑む日本人」**』（植林等の現地活動写真掲載）
- ▶ 内閣府 (財)日本経済教育センター：『**『どくとる・な～ると考える森林の大切さ』**』（「地球温暖化と森林の役割」の章で早魃した大地の写真掲載）
- ▶ (財)シマノ・サイクル開発センター：『**自転車博物館**』（「子供エコロジー新聞」のコーナーで干上がった沼の写真掲載）

他 多数

このほか、児童・生徒の発表会用資料や地方自治体の研究資料用に、緑のサヘルの写真を取り上げていただいております。是非皆さんも「提供；緑のサヘル」を探してみてくださいね ♪

ありがとうございました

【 新規会員の皆様 】

西山 歩／小田桐 真子／浅香 聡／小林 紗夕／清水 好美

【 継続会員のみなさま 】

大久保 久美子／梅田 暢子／畑中 健一／宮根 恭子／佐々木 順平／澤井 温子
内藤 篤／片岡 稔／向後 元彦／加藤 洋一郎／猪股 満希子／河村 ミヨ子／碓井 道子
小林 盛治／福川 佐代／浅輪 哲司／遠藤 保子／小枝 清子／橋口 日出夫／久保誠電気興業株式会社
桂井 武／アーユス仏教国際協力ネットワーク／袴 良子

【 ご寄付を頂きました。ありがとうございました。 】

松山 鶴子／竹中 和子／柳平 和子／石山 俊／近藤 正治／内藤 秀信／山野上 素充／高 嬉在
岩手県宮古市立第一中学校3学年／上野 雄二／株式会社 INAX 115名／愛知県春日井市春日丘中学校生徒会
藤田 知幸／eボランティア・ネット／高木 真味子／大阪信愛女学院高等部文化祭／大阪信愛女学院小学校
小林 伸張／本多 れい子／村上 和代／株式会社エフエスティ／碓井 道子／広島市西区楠木町小百合幼稚園
小林 盛治／コーラルハウジング株式会社／宗教法人幼きイエズス修道会
小枝 清子／米原 すみ子／鈴木 潤／大栗 久雄 他 匿名をご希望の方 25名

【 助成団体からの助成金 】

毎日新聞東京社会事業団 ／ 財団法人 地球市民財団

(敬称略、入金順)

上記は2007年2月1日から2007年3月31日までにご支援頂いた方のご芳名であり、2007年4月1日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。また、ご芳名の掲載につきましては、お名前の公開を承諾された方のみを掲載させて頂いています。あらかじめご了承下さい。

● お話させて頂きました。 ●

3月14日	東京都 江東区立 数矢小学校	(菅川)
3月16日	国際開発ジャーナル インタビュー	(岡本)
3月22日	池袋ロータリークラブ 定例会	(菅川)
4月17日	岩手県 盛岡市立 見前中学校	

♪ 事務所訪問や講師派遣のご依頼は、東京事務局までお気軽にお問い合わせください ♪

おしらせ

書き損じ葉書で国際協力しませんか？

書き損じ葉書、使わなかった古い年賀状などを大募集しております。1枚でもかまいません。どうぞ緑のサヘルにご寄付下さい。いただいた葉書は、新品や切手と交換もしくは換金し、活動に利用させていただきます。

絵葉書 プルキナファソからの便り

第47回産経児童出版文化賞受賞の小松義夫氏による緑のサヘル特製プルキナファソ絵葉書も発売中です。

穀物を風で選り分ける婦人の姿が特徴的なAセット、タカバングウ村の少女も収められたBセットの2種類があります。また、今年からは一枚からでも販売しております。ご注文は緑のサヘル事務局までお願いいたします。なお、売上は活動費に充てられます。

価格400円/1セット(4枚)

100円/1枚

郵送ご希望の場合、郵送料は別途申し受けます。

2007年 緑のサヘル オリジナルカレンダー

ご好評をいただいている「2007年オリジナルカレンダー」ですが、まだ若干ながら在庫がございます。

ご自宅用やご贈答品用等、どうかご購入にご協力をお願いいたします。

【目次】

- | | |
|---------------|------------------|
| 1・・・表紙 | 5・・・イベントのお知らせ |
| 2・・・緑のサヘル 質問箱 | 6・・・チャリティコンサート告知 |
| 3・・・国外活動報告 | 7・・・ありがとう |
| 4・・・国内活動報告 | 8・・・お知らせ |

<編集後記>

●新緑に薫風。1年の中でもっとも好きなのが5月です。なんでも5月生まれには聡明な人が多いのだそうです。…そう言えば私も5月生まれでした。(菅川) ●帰国して早3ヶ月。日本では一般に植物がもっとも良く成長する季節ではありますが、私は正に花期の盛りを迎えているであろう西アフリカの花々が懐かしいです。(岡本) ●五月雨に五月晴れ、ひいては五月病なんて言葉があるように、何かとめまぐるしく変化する季節です。なにはともあれ健康第一です！(佐藤) ●タンザニアから帰国して1ヶ月。今度はプルキナファソに向けて出発です。これで「緑のサヘル」の活動国の全てで調整員を務めることになります。(竹越) ●このたび参加した町です。協力隊で慣れ親しんだプルキナファソですが、NGOスタッフとしては初めての滞在になります。頑張りますので、よろしく願いいたします。(町)

ご贈答品・ご挨拶にどうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなどハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表にございます。大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】郵便振替用紙にご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振り込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北 東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー / チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細は同封のチラシをご覧ください。

* チラシの価格には送料が含まれていません。送料込みの価格は、上記の表をご参考にしてください。

La Forêt, C'est la Vie ! Vol. 30

編集 菅川拓也 岡本敏樹 竹越久美子 町慶彦 佐藤裕美/発行 菅川拓也/発行所 緑のサヘル/印刷 社会福祉法人 東京コロニー

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 田澤ビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041

HomePage : <http://www.jca.apc.org/~sahel/> E-mail : sahel@jca.apc.org